

誇れる街、苫小牧へ 快適都市への挑戦！ 躍進、ジャンプアップ苫小牧

第21回市議会定例会で、岩倉市長は平成23年度の市政方針と予算案を説明しました。市政方針では、今年度の基本テーマとして「誇れる街、苫小牧へ 快適都市への挑戦！ 躍進、ジャンプアップ苫小牧」を掲げ、誰もが安心して生き生きと暮らし、未来に向かって希望が持てるまちづくり実現への強い決意を表明しました。市政運営に臨むにあたり基本政策として3項目、今年度において取り組む重点施策として8項目、主要施策として総合計画に基づく5つのまちづくりの目標に沿った施策を掲げました。

本市は国際港湾と国際空港のダブルポートを有する恵まれた立地条件の物流拠点都市として、北海道経済の中枢を担い、さらに大きく成長できる可能性を秘めています。今後のまちづくりを行うにあたり、安定した財政基盤を確立すると同時に、さらなる成長を目指し、持続可能な社会システムを構築する必要があります。そのため、苫小牧港の機能充実をはじめとする社会資本の整備を行い、財政基盤の確立、そして経済活力を起点とした活気ある苫小牧づくりへの挑戦」を続け、着実な発展を目指します。

私は、2期目の基本テーマを、「誇れる街、苫小牧へ 快適都市への挑戦！ 躍進、ジャンプアップ苫小牧」としました。そのためには針路を見誤ることなく、市民にとって魅力のある、そして、誰もが安心して生き生きと暮らし、未来に向かって希望が持てるまちづくりを目指し、市長としての責任を全うします。今まで以上にリーダーシップを発揮し、さまざまな事柄に思いを巡らし、思考を重ねて本質を見極め、結論を導き出し行動する「千思万考」を今年の行動指針として、たくましいまちを築いていきます。

基本政策

財政健全化

財政健全化は、昨年策定した新たな財政健全化計画に基づき、行政改革プランと連携を図りながら、さらなる健全化の取り組みを進めます。今後も生活保護費をはじめとする扶助費の増加、景気対策としての公共事業の確保など、歳出の増加要因もあつたことから、厳しい財政運営が予想されますので、安定した財政体質の確立に向けて不断の努力を行います。

行政改革

行政改革は、昨年策定した行政改革プランの取り組みを引き続き進めます。指定管理者制度は、今年度から植苗ファシリテーターと北光町未来の森公園に導入するほか、各施設への導入を引き続き検討します。また、



重点施策

企業誘致

企業誘致は、トップセールスを軸に据え、データセンターなど今後の成長が期待できる産業をはじめ、多様な業種の誘致に積極的に取り組みます。また、CO2の回収・貯留技術であるCCSの実証試験誘致に引き続き取り組み、将来の企業誘致につなげていきます。

景気・雇用対策

景気対策は、市が発注する工事などは、可能な限り地元企業の優先活用に配慮し、早期発注や分離分割発注に努めます。雇用対策は、緊急雇用創出事業やワークシェアリング事業、雇用創出奨励交付金事業の継続とともに、新卒高校生等雇用奨励金の拡充を図るなど、雇用の創出に取り組みます。

CAP(まちなか再生総合プロジェクト)

CAPは、「プログラム・パート1(仮称)」の計画に基づき、まちなか居住の推進、ライブラリーカフェ(仮称)設置や地域ブランド戦略事業などによる「賑わいの創出」、「公共交通の利便性向上」を図ります。特に、地域ブランド戦略事業は、1市4町の広域連携により、食の商品開発や観光ルートづくりなどを進め、東胆振全体の魅力を高めめます。各種施策を通じ、まちなかを暮らしやすい生活空間へと充実させ、定住人口や交流人口の増加を目指します。

みんなでふくし大作戦!

大作戦シリーズは、「みんなでふくし大作戦」を実施します。町内会や民生委員児童委員、各種の福祉サービスを提供する社会福祉法人などと連携し、地域における支えあいの仕組みを構築します。「ふくしの心」を高めましょう、「ふくしの絆」を広げましょう、「ふくしのまち」をつくりましょう、の3つのテーマを柱に、あいさつかけ運動や絆フェスティバル、ふれあいサロン事業、障がい者の就労支援などを実施します。



健康と医療

健康を守る事業は、任意のワクチン接種助成を継続します。国の助成制度を活用し、子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチンおよび肺炎球菌ワクチンの接種に

環境

地球温暖化対策は、市民1人1日15kgのCO2削減に向け、住宅用太陽光発電システムの設置者に対する助成を拡大するとともに、さまざまな啓発事業を行い、温室効果ガスの排出削減に取り組みます。また、市の施設に資源物常設回収拠点をついに設けるほか、紙類の資源回収について具体的方策の検討を行い、循環型社会の形成を目指します。

教育

学校教育は、平成25年4月の開校を目指し第24小学校(仮称)の設計を進めるとともに、引き続き小・中学校の耐震診断を実施します。また、建設中の第1学校給食共同調理場は、平成24年4月からの供用開始に向け、調理業務の民間委託導入などの準備を進めます。社会教育は、苫小牧市美術館(仮称)の平成25年度オープンに向け、設計に着手します。また、1月には第84回日本学生氷上競技選手権大会を開催します。

苫小牧中央インターチェンジ

苫小牧中央インターチェンジは、物流の効率化や広域医療への貢献、企業立地の促進や災害時の代替道路としての活用などの効果が期待されます。設置の実現に向けては、国の政策を注視しながら北海道をはじめとする関係機関と協議を進めます。

主要施策

健やかで安心・安全に暮らすまち

- 子育て支援は、市立保育園3園の民間移譲と建て替えに向けて取り組みます。
●母子家庭への支援は、各種給付金の利用を促進し、経済的自立を支援します。
●高齢者福祉は、高齢者自身の社会参加にポイントを付与する、介護支援ボランティア制度の導入に向けて準備します。
●障がい者福祉は、利用者の負担軽減を図るとともに、障害福祉サービス事業所の安定的運営を支援します。
●市立病院は、最新の医療機器の整備を行うとともに、地域がん診療連携拠点病院の指定に向け取り組みます。
●河川は、植苗・美沢地区でのカヌーポイントと親水公園の整備に向け、地域や関係機関との調整を図ります。
●消防は、救急業務の高度化と、消防ポンプ車の更新など、災害に強い地域づくりを進め、市民の安全確保に努めます。

活力ある産業と賑わいのまち

- 新千歳空港は、北海道の空の玄関口として、利用しやすい空港を目指します。
●在日米軍再編に伴う千歳基地での日米共同訓練は、市民周知に努め、市民の安心・安全を確保します。
●苫小牧港は、西港区の西ふ頭改良整備事業や東港区の耐震化などを行い、機能を強化します。
●商業は、CAP



市長 岩倉 博文



自然と環境にやさしいまち

- ウトナイ湖が、ラムサール条約登録20周年のため、博物館で特別展を開催するほか、野生鳥獣保護センターや道の駅を中心に記念イベントを開催します。
●アスベスト対策は、小・中学校4カ所で煙突改修工事を行うほか、市の施設でも年次計画で順次、改修を進めます。

快適空間に生活するまち

- 公園は、地域の声を取り入れ、安心して利用できる公園づくりと施設のバリアフリー化を進めます。
●水道事業は、家事用水道料金の見直しと口径別体系の簡素化を実施し、負担軽減と不公平感の解消を図ります。
●下水道事業は、合流式下水道の改善、老朽施設の延命化、雨水管整備や汚水管未整備箇所の解消などを行います。
●市営住宅は、日新団地の一部を若草町へ移転するため、実施設計を行います。
●道路整備は、植苗停車場道線、緑町2条通線、双葉3条通線整備に着手します。

手をつなぎ歩む誇りが持てるまち

- 地域活動の拠点となる町内会館の整備は、沿ノ端東雲福祉会館(仮称)の新築と幸町総合福祉会館の修繕に助成します。
●国際交流は、国際交流サロンなどで開催する各種事業を通して、在住外国人との交流の輪を広げていきます。